

## 平成 21 年度沖永賞選考経過及び授賞理由

平成 21 年度の沖永賞の選考経過及び結果をご報告いたします。

昨年 10 月に、沖永賞の候補となる図書・論文の推薦方を、労働関係の学者・研究者を中心とする 77 名の推薦人に依頼いたしました。推薦対象としましたのは、平成 19 年 10 月から 21 年 9 月の間に出版、発表された図書、論文です。

平成 22 年 1 月 27 日に、当財団の審査委員会を開催し、推薦された図書・論文について、慎重に審査いたしました。その結果、次の図書 1 点を、平成 21 年度の沖永賞授賞作と決定いたしました。

(授賞図書)

すずき えり こ  
鈴木江里子 著「日本で働く非正規滞在者」

なお、論文については、本年度は「該当なし」となりました。

次に、授賞理由を説明いたします。

本書は、いわゆる不法滞在者と呼ばれている外国人たちの日本での就労、生活実態を明らかにしたものです。不法滞在者の「不法」という言葉について、彼等の法違反が彼等の責に帰せられない場合があったり、「犯罪」に結びつけられやすい表現になっている、といったことから、本書では題名にもあるように「非正規滞在者」という用語が使用されています。

本書の内容を簡単に紹介しますと、まず序章で、特に男性の非正規長期滞在者に着目し、彼等の熟練の度合いや国籍にかかわらず長期間の就労によって職場や労働市場における彼等の評価が高まっているのではないかと、また、日本の社会構造の変動に応じて彼等の就労行動には、国籍にかかわらず共通した変化が起こっているのではないかと、という二つの仮説を設定して、その検証を行うことが記述されています。第 1 章は「外国人政策における非正規滞在者」ですが、ここでは

戦後から今日に至るまでの外国人政策が詳細に調べられ、その変遷が詳しく紹介されています。第2章「非正規滞在者を取り巻く社会経済環境」では、人手不足が深刻化したバブル期以降の外国人労働者を取り巻く社会経済環境が明らかにされています。第3章「男性長期非正規滞在者の就労実態」では、統計データに基づき非正規滞在者のマクロ的な実態が明らかにされたうえで、男性長期非正規滞在者28人に対して実施した聴取調査の結果が詳しく紹介されています。第4章「社会構造と男性非正規滞在者の就労行動」では、滞在の長期化に伴う男性非正規滞在者の変化が検討されたうえで最初の仮説の検証が行われ、また、バブル期、バブル崩壊後、入管法改正後の各期における非正規滞在者の就労行動が検討された上でもう一つの仮説の検証が行われています。

このような内容の本書は、第1に、なかなか調査がしにくいいわゆる不法就労者に対して、28名と必ずしも多くないものの丹念な聴取調査が実施され、その結果が詳細に分析、紹介されて、それによってこれまでの研究では明らかになっていない様々な具体的事実が明らかにされていること、第2に、外国人政策や外国人就労者に対する日本社会の意識について、政府の白書から新聞、NPO関係者の情報等幅広い資料を収集整理し、それらを駆使した分析を行っていることを評価することができ、これらのことから質の高い著作であると評価されました。審査委員会においては仮説の検証過程が必ずしも十分に整理されていないとの指摘もありましたが、本書の上述のような長所に基づく高い評価を損なう程のものではなく、今後一層の発展が期待されるとして、受賞が決定されたところであります。

以上、簡単ですが、選考経過と授賞理由のご報告とさせていただきます。

授賞されました鈴木さんに心よりお慶びを申し上げ、今後益々のご活躍を期待しております。